

夏季の女兒既製ドレスの研究(第1報)

— 需要調査に基づく新しいデザインについて —

谷 山 和 美

緒 言

近年既製服の進出・進歩はめざましく、とくに女兒既製ドレスにおいてはその需要が目立っている。母親は女兒既製ドレスに対して何を求めているか、また現在販売されている女兒既製ドレスの実態はどうであろうか。さらに日常生活の中で実際に着用されている女兒既製ドレスはどんなものであろうか。女兒既製ドレスの長所・短所などを知るために、本調査を行なってみた。それによると母親の求めている女兒既製ドレスと販売されている女兒既製ドレスとの間にはまだ相当の開きがあるように思われる。今後女兒既製ドレスを製作するにあたって、需要者の希望をじゅうぶん調査し、その実態を明ら

かにするためにこの研究は行なわれた。

調査方法

調査は昭和41年6月末から7月初めにかけて広島県下およびその周辺に住む2才~10才の女兒を持つ主婦を無作為に400名抽出して調査の対象とした。女兒および主婦の年齢別調査対象は第1表のごとくであり、家庭の職業は第2表に示すように公務員・会社員などの一定収入の給料生活者が80%で調査の対象の大部分をなし収入の変動のない家庭を主として調査することになった。

第1表 女兒および主婦の年齢構成

子供年齢(才) 母親年齢(才)	子供年齢(才)										子供年齢(才) 母親年齢(才)	子供年齢(才)									
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	2		3	4	5	6	7	8	9	10		
22	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36	0	1	5	4	3	3	6	2	1	
23	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	37	1	0	1	3	2	3	4	0	4	
24	8	0	1	0	0	0	0	0	0	0	38	0	1	0	1	1	4	1	3	3	
25	7	6	1	0	1	0	0	0	0	0	39	0	1	0	0	0	1	2	1	3	
26	9	3	5	1	0	0	0	0	0	0	40	1	0	0	0	0	0	1	2	5	
27	9	3	6	2	1	0	0	0	0	0	41	0	0	1	0	1	0	0	2	1	
28	6	10	6	2	6	1	0	0	0	0	42	0	0	0	0	1	0	1	1	4	
29	4	7	9	2	7	4	1	0	0	0	43	0	0	0	0	0	0	1	1	0	
30	4	6	10	7	7	8	5	0	0	0	44	0	0	0	0	0	0	1	2	0	
31	1	5	1	4	4	3	1	2	1	1	45	1	1	1	0	0	0	0	0	1	
32	3	2	2	5	8	5	2	4	2	2	}										
33	1	1	2	6	4	4	5	1	2	2											
34	0	4	3	1	2	4	2	2	1	1	52	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
35	1	0	3	2	4	3	1	6	5	5											
計 400名																					

第2表 家庭の職業別割合 (%)

家庭の職業	子供の年齢 (才)	2	3	4	5	6	7	8	9	10
公務員		3.25	3.5	3.25	3.5	3.5	1.25	2	1.5	3
会社員		8.75	6.75	6.75	5.25	5.5	6.75	3.5	2.75	3.25
商業		2.25	0.75	2.75	0.75	3	2.25	1.5	1.75	1.5
農業		0.5	2	1.25	0.5	1	0.5	1.25	1.25	0.75
無職		0	0	0.25	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0.25	0	0

調査1は需要・希望実態調査を主としたもので調査員が直接家庭訪問し、夏の女兒既製ドレスをもととしてつくった既製ドレスの利用方法、購入方法、サイズ、既服製についての希望、既製ドレスの今後のあり方などについての質問

紙(第3表)をあらかじめ用意して、主婦に質問し該当するところへ調査員が○印をつけた。さらに意見や希望の欄には、その内容をきき需要者の声としてまとめてみた。

第3表 女兒既製ドレスについての調査(1)

問Ⅰ 調査員は、女兒をもつ母親に、次の事項を質問し記入してください。

(女兒の対象は2才~10才とする)

- 調査対象となる子供の年齢 才
- 調査対象となる子供の母親年齢 才
- 住所 県 市郡 町
- 家庭の職業

問Ⅱ 女兒既製ドレスについて、母親に次の問を質問し該当する番号を○で囲み、該当するものない場合は「その他」のいちに○をつけ(例)のごとく記入してください。

- (例) あぎのいちについて………
- 1 肩あぎがよい。
 - 2 後あぎがよい。
 - 3 前あぎがよい。

④ その他 あぎはなく頭からすっぽりかぶるのがよい。

- あぎのいちについて………
 - 1 肩あぎがよい。
 - 2 後あぎがよい。
 - 3 前あぎがよい。
 - 4 その他
- とめの方法について………
 - 1 ボタンドめがよい。
 - 2 フェスナーどめがよい。
 - 3 スナップどめがよい。
 - 4 その他
- 女兒既製ドレスを買う時の大きさのきめ方………
 - 1 身体にきっちり合うものを買う。
 - 2 大きめなものを買う。
 - 3 小さめなものを買う。
 - 4 その他

- 女兒既製ドレスを
 買い求めるとき……………
- 1 必ず試着してみよう。
 - 2 号数のみを参考にして買う。
 - 3 身体にあてがって見て買う。
 - 4 その他
- 女兒既製ドレスは……………
- 1 全部既製ドレスを利用している。
 - 2 全然既製ドレスを利用していない。
 - 3 仕立服と既製ドレスを合せて利用している。
 - 4 その他
- 女兒既製ドレスは、
 どこで買うか……………
- 1 百貨店
 - 2 子供服専門店
 - 3 スーパーマーケット
 - 4 行商
 - 5 その他
- 女兒既製ドレスを買う
 とき誰が見て買うか……………
- 1 祖父
 - 2 祖母
 - 3 父
 - 4 母
 - 5 兄
 - 6 姉
 - 7 その他
- 母親は子供の服装
 について……………
- 1 非常に気にかかる。
 - 2 気にかかる。
 - 3 あまり気にしない。
 - 4 その他
- 女兒既製ドレスを買
 うとき誰が好むもの……
 を買うか
- 1 母親がみて満足できるもの。
 - 2 子供の好むもの。
 - 3 他人が見て、好むだろうと思われるもの。
 - 4 その他
- 女兒既製ドレスを買
 うとき一番気にかかる
 こと……………
- 1 着やすいか。
 - 2 デザインがすきか。
 - 3 サイズが丁度よいか。
 - 4 布がすきか。
 - 5 ねだんが安い。
 - 6 色がよいか。
 - 7 仕立てがよいか。
 - 8 その他
- 女兒既製ドレスを買
 い求めたら手直しを
 して着せる場所……………
- 1 ボタンを、とりかえる。
 - 2 気にいらぬ装飾をとりのぞく。
 - 3 ボタンやスナップを丈夫につけかえる。
 - 4 身丈に合うように、丈を入れて着せる。
 - 5 ほつれやすい所を、ぬっておく。
 - 6 その他

問Ⅲ 女兒既製ドレスについて、母親の希望や意見を聞き、記入してください。

記入欄

調査Ⅱは、調査Ⅰの結果母親の求めている女兒既製ドレスと現在子供の着用している女兒既製ドレスとのあいだに相当の開きのあることに気づき次のような方法で着用実態を行なった。すなわち、7月21日午後広島市の繁華街の三叉路の一角をえらび、一見女兒既製ドレスとみなされる服装をして歩いている2才～10才くらいの子供400名について、とくに問題となった「あき」の位置と「とめ」の方法について、観察した。調査日の気象状況は第4表のごとくである。

第4表 街頭調査日の気象状況

昭和41年7月21日
広島気象台調べ

時 (時)	天 気	気 温 (度)	気 圧 (ミリ メートル)	湿 度 (度)	風 (m)
12	くもり	29.6	1010.9	70	南 3.5
15	くもり	31.3	1009.7	61	南 4.2

調査Ⅲは女兒既製ドレスを販売している広島市内の百貨店や子供服専門店の販売状態、製作にあたっている既製品工場での製作状態などについて調査を行なってみた。

調査Ⅳは子供は後あきのファスナーどめをしめるのに年齢によってしめ加減が違ってくるのではなかろうかと思い、一定の条件を保つために長いファスナーをつけたドレスを用意して、これを着用させ、各年齢層ごとに自分の力のみで金具をしめさず調査をした。あわせて子供に女兒既製ドレスについての意見や希望を聞いてみたものである。

調査Ⅴは、ファスナーつけと、ボタンつけ、スナップつけのしまつの時間の差について、既製服を直接製作している職人を対象として調査したものである。

調査Ⅵは調査Ⅰの問Ⅲに記された母親の希望や意見欄に記された需要者の声をまとめて、その問題を列記し(第5表)調査Ⅰと同一家庭を訪問し母親の認識などを調査してみた。

第5表 女兒既製ドレスについての調査 (2)

- ・調査対象となるのは「女兒既製ドレスについての調査(1)」と同一人物であること。
- ・次の問は「女兒既製ドレスについての調査Ⅰ」の問の中の問Ⅲ「女兒既製ドレスについて、母親の希望や意見を聞き記入してください」の記入欄に記されたものをまとめて、つくられたものである。
- ・「問」質問事項に対する解答欄に○×で記入のこと。

解 答 欄	質 問 事 項
	ボタンつけや、スナップつけが、よくないと思う。
	裾のぬいしろを多くとってほしい。
	脇などのぬいしろを多くとってほしい。
	ぬい方を、ていねいにしてほしい。
	ポケットを、必ずつけてほしい。
	一人でぬぎ着のできるデザインにしてほしい。
	全体のデザインが、ごてごてしている気がする。
	子供服の号数は、製作工場によって、サイズが違うことを知っている。
	女兒既製ドレスは安いと思う。
	女兒既製ドレスに対して今後改良が望ましい。
	女兒既製ドレスを買って体に合うように手直しをしてから着せる。
	スナップやボタンを、しっかりつけかえてから着せる。
	サイズに J I S 規格のあることを知っている。

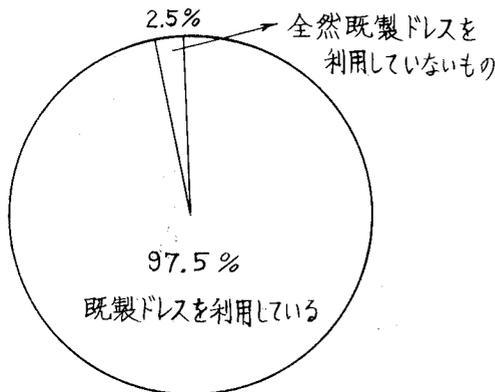
結果および考察

市販女兒既製ドレスと需要者の希望する女兒既製ドレスの相違について。

近年既製服の進出はめざましいといわれているが、女兒既製ドレスにおいてもその例にもれず非常に多くの利用率を示している。子供の既製ドレスがいかに一般需要者に利用され親しまれているか。第6表および第1図によって明らかかなように女兒既製ドレスを多少にかかわらず利用しているものは、圧倒的に多く全体の97.5%と恐るべき数を示している。

第6表 女兒既製ドレス年齢別利用率

年齢(才)	既製ドレスを利用している。(%)	全然既製ドレスを利用していない。(%)
2	100	0
3	99.5	0.5
4	100	0
5	99.25	0.75
6	99.5	0.5
7	99.75	0.25
8	99.75	0.25
9	99.75	0.25
10	100	0

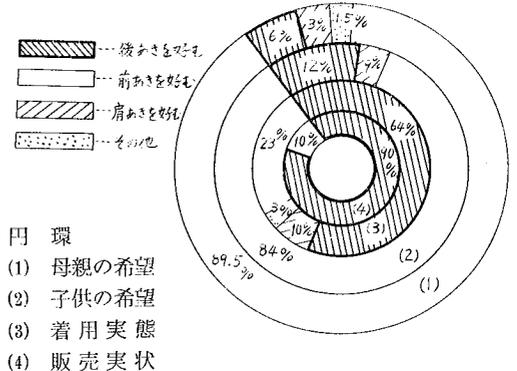


第1図 女兒既製ドレス利用表

利用率の高い原因としては、非常に手軽に、かんたんに入手できてすぐ着られる。似合うか似合わないかがその場で直接着て見ることができてすぐわかる。また割り合いに安価であるところなどに原因があるものとみられる。しかしながら需要者の求めている女兒既製ドレスと販売されているものとの間に相当のひらきがあることが明らかになった。

(1) 「あき」と「とめ」

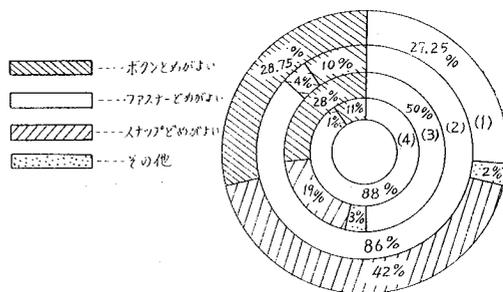
あきの位置やとめの方法について需要者の求めている女兒既製ドレスと、販売しているものとの間にひらきのあることを知ることができる。あきの位置については第2図によって明らかにわかるように、母親のあきの位置についての希望は前あきが89.5%と非常に多く、後あきや肩あきを好むものは非常に少い。実際に女兒既製ドレスを着用している子供自身もあきの位置については、前あきの服なら自分一人で着ることができるか、着るのにたやすいからの理由で84%も前あきの服を好んでいる。しかし、このように需要者側の希望が母親も子供も前あきを好むのに反して、第2図に示されているように、販売されている女兒既製ドレスのあきの位置の実態は、後あきが90%、着用実態は64%にもものぼる。前あきのものを求めている母親が大多数にもかかわらず、前あきを販売しているのは、わずか10%で着用実態も23%にしかすぎない。希望と実態とは正反対で、後あきのものが圧倒的に多い。



第2図 「あき」のいちについての好みの比較

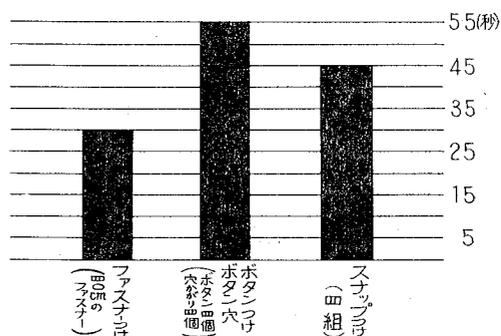
後あき、肩あきが需要者の希望の多い前あきをしり目に、このように多く販売されていることは着用の便利さを考えるよりも、一見豪華に見えるため売れ行きがよいことを主体として、製作されているとみられる。前身頃にあきをつくらなければ、あきの線が邪魔にならないのでデザインする範囲が広がる。したがってデザインする場合に簡単にできいろいろなデザインが豊富に取り入れられることに原因があると思われる。需要者の希望よりも見かけをよくして売れ行きのみを考えている商魂たくましい業者の営利主義のあらわれと考えられ非常に残念である。

止めの方法についても、ファスナー止め、スナップ止め、ボタン止めなど一長一短があると思われるが、第3図に示すように子供は、ファスナーをつけて、とめるものを好み、希望しているものが全体の86%にのぼるが母親は27.25%が希望しているにすぎない。ファスナー止めのよい点として、子供は簡単にとめることができ、ボタンやスナップのようにとれることができなく、はずれる心配がない。急ぐとき早くしめられてよいが、一旦こわれたり布に食い込んだら大へん困るというように、良い点と悪い点を合わせて指摘している。母親がファスナーを使ってあるものを好まないのはファスナーで仕立てた服は後あきのものが大部分をなし、着用する時に子供自身が一人で着用することは非常に困難で必ずといってよいほど手伝わなければならないことが多いからではなかろうか。販売している女兒既製ドレスはファスナー止めが88%の多数を示している。後あきの方法には最適の部品であり、安く売るためには時間と手数がかからずそのまま上からミシンでたたきつけて仕立てることができて製作にあたり手間がかからない。これに反して、ボタン止めの製作には穴かがりもともない比較的高度な技術と労働力を必要とするために既製業者は好まないと思われる。



第 3 図 「とめ」の方法についての好みの比較
円環 (1) 母親の希望 (8) 着用実態
(2) 子供の希望 (4) 販売実状

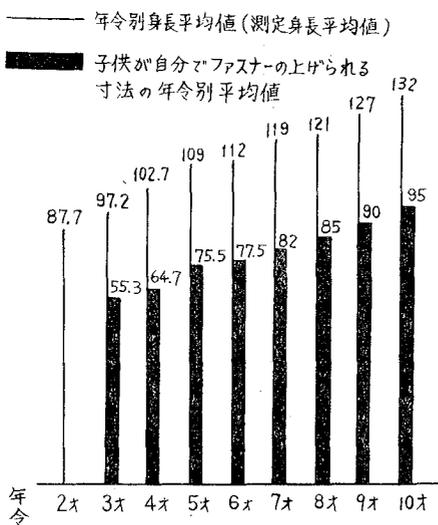
既製服の専門職人によって、このとめの方法の時間差を比較してみると、(第4図参照)次のような結果が現われた。仮に後あき40cmとしてファスナーつけを実験してみると、平均一本つける時間が30秒かかる。40cmでボタン穴は最低4箇所は必要だと思われる。それに穴をあければ必ずボタンをつけることになる。ボタン4箇所つけるのに約15秒。ボタン穴4箇所で40秒かかる。これを合計するとボタンどめの方法は平均55秒かかることになる。スナップつけは4組つけるのに平均45秒程度かかるが、スナップはミシンを使わず手仕事でつけられている傾向がつよいようである。したがって、ファスナーつけが最も短時間で仕立てられることができ、既製服のように多量に製作するものは、このような少しの時間差でも相当の時間の差を生じ労働能率上好ましいと考えられている模様である。



第 4 図 ファスナー、スナップ、ボタンつけの労働時間差比較
(あき40cmに対する必要付属品最低量のもの)

各年齢ごとに後あきでファスナーのついたドレスを着用させ自分の力でこれをしめさせ、年齢別にみると、第5図ならびに第7表に示すようになる。すなわち2才の子供は後あきのファスナーの金具を上から下に下げることはもちろんのこと下から上に上げることは自分の力では全然できないことを知ることができた。

(単位cm)



第5図

後開きのファスナーを自力で下から上に上げられる年齢別比較表(その1)

第7表 後あきのファスナーを自力で下から上にあげられる年齢別比較表(その2)

(単位cm)

年齢(才)	標準身長	標準胸囲	測定身長平均値	一人でファスナーの上げられる平均値(床上から)
2	90	49	87.7	0
3	97	52	97.2	55.3
4	103	53	102.7	64.7
5	108	54	109	75.5
6	113	55	112	77.5
7	118	57	119	82
8	123	59	121	85
9	128	61	127	90
10	134	63	132	95

動作によって後あきのファスナーが完全に開められる。

ファスナーを自分の力でしめることのできる寸法は年齢によってだんだん多くなってくると運動神経によって大差が出てくると思われる。9才くらいになるとまず後に手を回して、ある程度金具を上へ上げ肩から後に手を回して残りの金具を上へ上げる。つまり二動作によって完全にファスナーがしめられるようになる。正常な服の着用状態では8才以下くらいの子供は後あきでファスナー止めの服は一人で着用することは無理であることがわかる。母親のスナップをつけて止めるのを好む42%やボタンをつけたのを好む28.75%にくらべ、子供のスナップどめを好む4%とボタンつけを好むものが10%にとどまったのも子供ながらに実際にドレスを着用して不便さを感じて、この低率が示されたものであろう。スナップははずれやすいからいやだとか、一つ一つとめるのがめんどうだからいやだとか、ボタンは穴の位置をまちがって入れることがあるからいやだという。子供の声はきびしく、スナップやボタンつけのやり方がよくなく、よくとれるからとの批判の声もあった。しかし、ボタンとめの服のすきなのは、ボタンが直接体にあたらないので痛くないとか、きれいなボタンがつけてあるので楽しいとかの理由のみで、機能とか実用は考えず実に無邪気ですなおな子供らしい心理であきのしまつのよし悪しをきめているようである。

今回は母親中心だから子供自身の着服の心理の発達については問題があるが、当面のテーマとは、はずれるので別の機会に報告したい。したがって子供の身体発育や活動能力および精神発達、生活状態に適応したものを作り出すことが、今後子供の既製服デザイナーの使命ともいえよう。

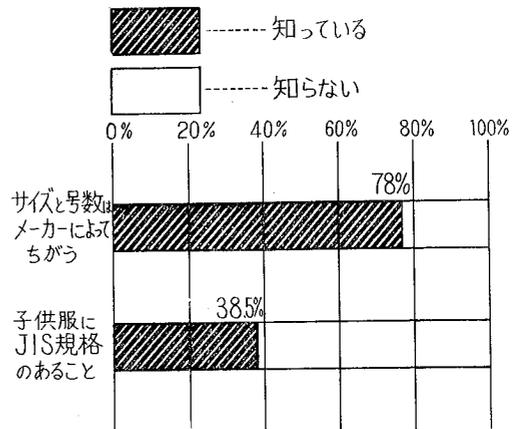
(2) サ イ ズ

母親はサイズについては案外むとんちゃくで第6図のように子供に試着させて買う22.5%以外はほとんどが体にあてがって見たり、あらかじめ体のサイズを計っておいて年齢を基準にした号数をたよりに買い求めるものが多い。第8表に示すごとくJ I S規格(文献1参照)をと

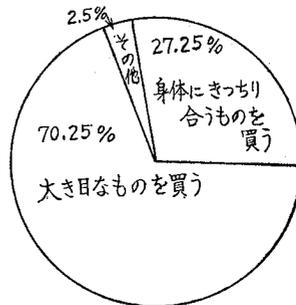
り入れているメーカーは必ずしも多くない。福富芳美氏（文献2参照）によると「メーカーによって同じ年令表示でもサイズの面は不統一がまみられる」このような見解をもっているにもかかわらず第6図のように号数やサイズのみを参考に買い求めているものがある。第7図でわかるように号数やサイズはメーカーによってまちまちであることを知りながらも、これを基準として買いその上第8図のように大多数の70%強が子供のサイズよりも大き目なものを選んでいる傾向にある。これは成長の早い子供に少しでも長く着せたい親心であると思われるが、これでは子供の個性もなくなり活動的に不便である。

第8表 メーカーによって寸法に
差のある胸囲りの比較表
(単位cm)

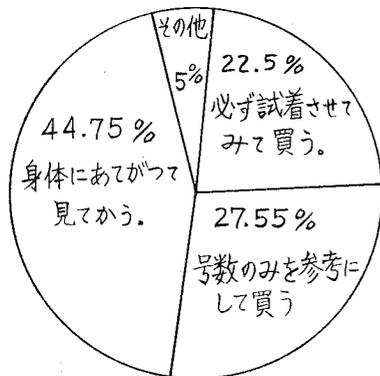
号数 (号)	JIS ^G サイズ	A社	B社	C社
2	49	46		52
3	52	49	53	54
4	53	52		56
5	54	53	54	58
6	55	54		60
7	57	55	57	62
8	59	57		64
9	61	59	61	
10	63	61		



第7図
母親のサイズについての認識



第8図
女兒既製ドレスを買うときの大きさのきめ方



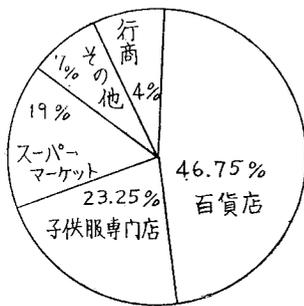
第6図
女兒既製ドレスを買い求めるとき…

近年子供の体位は向上の一路をたどり、とくに肥満児などが多くなった現在、年令を基準としたサイズの決め方は不合理であると思われる。年令と胸囲・身長のみでなく、体型の特徴を基準としたサイズの表示をつくり、種類を多くとりそろえて体に正しく合ったものを子供には着用させてやりたいものである。とくに「全国统一サイズ」の声は需要者側に大であるとみられ、今後へのこされた重大な課題といえよう。

II 女兒既製ドレスを選択する諸条件について。

(1) 選択する場所

デパートや専門店、特殊な特売品でないかぎりメーカー品をそろえている。そのためか第9図のごとく70%は百貨店や専門店で購入している。しかし、専門店よりも百貨店の方が気軽にえらぶことができると母親はいつている。



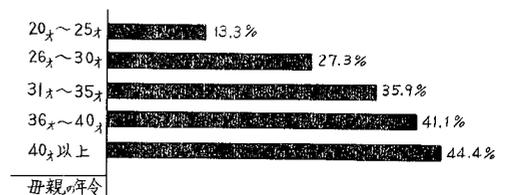
第 9 図
女兒既製ドレスはどこで買うか

行商で買い求めている者が4%で調査区域の中では極端に辺地や島部が少々加わったためにこの率が出てきたものではないと思われる。どんな理由にしても、行商の持ち歩いている数少ない商品の中から子供のバラエティーに豊かな表情や体型に合わせて求めるということは不可能である。女兒既製ドレスにかぎらず、既製服は一流メーカー製品を買うのが無難な買い方である。信用あるデパートまたは専門店で購入することががのぞましい。

(2) 選択のよりどころ

既製服選択の大切な一条件として、メーカー品をえらぶことをあげたが、メーカー品を指定して買う人は全然ないといってよいほどで、メーカーが気になるという母親34%もスタイルや布地や色が気に入ればメーカーなどは全然気に

していない気配がすると販売者はいつている。つまり気に入ればどこの製品であっても関係はなく買い求めていると思われる。第10図に示すように母親の年齢の若いものは、あまりメーカーを気にしていないが、年を増すほどメーカーにこだわるようになる。長年の経験でいろいろの製品をつかってきた結果、信用をもってつくられたメーカー品はその優良さがあることを身をもって体験しているあらわれであろう。

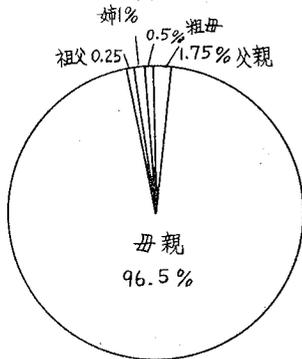


第 10 図
メーカーを気にする母親の年齢別割合

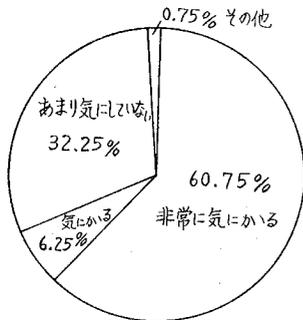
(3) 選択する主体について

女兒既製ドレスを買い求める場合、子供一人で買いに行くということは絶対ないことである。100%に近い数が第11図のごとく母親が購入の責を負っている。これは母親と子供との親子関係において当然なことと思われるが、着用する当の本人よりも買い求める母親側の意見が多分に加味されているのではなからうか。第12図に示すように母親は子供の服装については関心を持っていて、子供の日常の服装については非常に気にかかっているものが60.75%、やや気にかかるものは6.26%で、子供の服装について全然気にかからないものは0の解答を得た。このように服装については非常に関心を持ち、購入の責任を担っている母親も選択方法については案外無責任であり、第13図のように外見から見て自分自身が満足できるような布地やデザインや色であれば購入している。また、他人から見て好まれると思われるものを求められる傾向にあり、子供自身の精神状況とか身体機能を考慮したものは非常に少く、母親の子供服に対

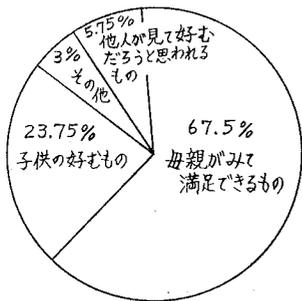
しての選択方法の非科学的な態度には淋しさを
感じる。



第 11 図
 女兒既製ドレスを買うときは誰が見て買うか



第 12 図
 母親は子供の服装について



第 13 図
 女兒既製ドレスを買うとき誰が好むものを買うか

しかし、子供はいつまでも他人まかせではなく自分で選び、自分で着用して見て意見を入れて買うときがやってくる。4才～5才ごろにな

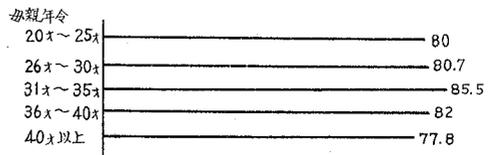
ると精神的にも年令的にも自分の意見がいえる
 ごろになるといわれるが、服装についてもこれ
 がはっきりとあらわれてきているようで、第9
 表のように4才をくぎり、年令が多くなるに
 つれて自分の意見を入れて服を買い求める子供
 が多くなっているのに気づく。4才以上の子供
 服は母親と子供の意見のはいったもの、とくに
 年令の大きくなるにつれて子供の意見が多くは
 いったものをつくらなければいけないと思われ
 る。

第9表 子供は、年令が多くなるほど自分の意見を入
 れて服を求める傾向
 (自分の意見を入れて購入する年令別割合)

年令 (才)	2	3	4	5	6	7	8	9	10
割合 (%)	3%	4%	10%	32%	34%	51%	63%	70%	82%

(4) 製作技術による選択について

現在販売されている女兒既製ドレスの製作方
 面の批判および希望としては、仕上げの仕方は
 あかぬけしているが縫い方が非常に雑で、時
 には衿の形が不そろいになっていることがあ
 たり、縫い糸が長く切りっぱしになっていたり
 もう少し気をくばって、ていねいに縫ってほ
 しいものだ。糸の種類は木綿の布のときは材質
 に適当だと思われる木綿糸を使うべきである。近
 ごろは布の伸縮のあるものが多く用いられて
 いるようであるが、このような場合には糸も伸
 縮性のあるものを使わなければその布の持ち味
 を十分発揮することができないので、こんな所
 に大いに気をくばって業者側は製作にあたって
 かなければいけないと感じる。



第 14 図
 ボタンつけやすナップつけがよく
 ないという母親年令別割合 (%)

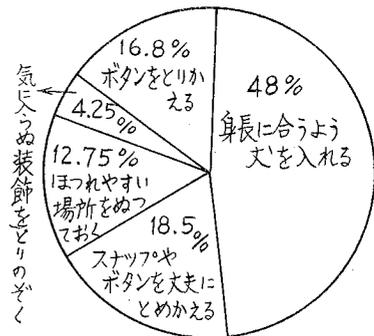
第14図に示すように、ボタンつけやスナップつけがよくないと母親各年令層の80%以上が言っている。とくにボタンつけや穴かがり、スナップつけは、近年機械をつかってつけられている傾向で、ボタンをつけた糸の後仕末などは実に簡単になされている。われわれが自家製品として仕立てる服のボタンつけには布の厚味分だけ糸の足をつくり、それに糸を巻きつけて作業するが、既製服にはこんな作業は全然なされていない。したがって一見ただけでも弱々しい感じを抱かせる。

子供は身長が目立って伸びる。したがって、丈が短くなることが多いので、これを調節するために裾のぬいしろをたくさんとってほしいことはもちろんのこと、横巾の縫いしろを出してまで着ることはほとんどでないが、夏のドレスはほとんど自家でせんとくをし、せんとく機を使うことが近ごろは多くなったために縫いしろが少なれば布がほつれてその位置からほつれはじめる。そのために横巾の縫いしろを多くしてほしい希望があるものと思われる。

(5) デザインによる選択について

デザイン方面の批判としては、子供が一人で簡単に脱ぎ着のできるようなものが少い。またデザインが非常にごてごてしていて実用的でなく、刺繍やレース、フリル等の装飾が多すぎて使用目的に合わせてつくられたものが少ない。同じ種類のデザインが多すぎ、各年令層に同じ布で同じデザインを使ってつくったものが多くて好ましくない。年令によってデザイン・柄・色は好みがちがいが、似合うデザインも柄も色も違はずであると思われ、この希望の出るのは必然的であろう。また、必ずポケットをつけてほしい。小さい子供には案外ポケットが自分の夢を託す場所として使われ、せいぜい小石やお菓子を入れる程度の役目かも知れないが、幼稚園や学校に行くようになれば何かと持ち物もありハンカチを持つ意義を教えられチリ紙を持つことを教えられるが、入れる場所がなくてはなかなか持つことができない。デザインの中に入れ込むことも大切であるが、不可能なときは仕

立てるときに脇の縫い目の位置を利用してポケットをつけることは手数がかかって大仕事になると思われるが、こんなところに気を使って仕上げるのが業者として親切なやり方ではなからうか。前に述べたように、できるだけ希望条件に近いものを求めるが、しかしながら自分の希望条件にぴったりしたものは、なかなか入手することはむずかしいので、一旦購入したドレスを着用する子供の体格や個性に合わせて手直しをして着用さすものも目立っている。長く着せるために丈の長いものを求めるものが多く、身丈の長いのは見た目にもいちばん不格好でもあり活動的でもないためか、この個所を手直しして着せるのが第15図に見るように48%と目立っ



第 15 図

女兒既製ドレスを買い求めた
ら手直しをして着せる場所

スナップやボタンをつけかえてから着せる用意周到な母親もあり、レースや刺繍、フリルなど気に入らない装飾を自分の好みに変えているものもある。16.5%と案外高率のボタンを、とりかえてから着せるものが多いのは、既製服には案外安価な粗悪品を使っていて少し上等なものにとりかえるわずかな心づかいによって、一段と洋服の価値が上がってくることに気づいているものと思われる。

(6) 価格による選択について

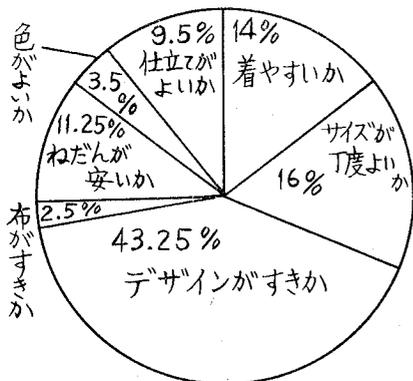
ねだんの批判については、よい品で手の込み入っているものは目の出るほど高いが普段に着せる簡単なものは仕立てるよりも安く入手できるような気がするが第10表に示すように決して安いとはいっていないようである。

第10表 女兒既製ドレスは安いと思う母親年齢別表

母親の年齢(才)	割合(%)
20 ~ 25	46.7
26 ~ 30	43.1
30 ~ 35	40
36 ~ 40	35.9
41 ~ 以上	50

(7) 選択順位について

女兒既製ドレスを購入するときの需要者側の希望条件をまとめてみると、第16図にあげられているように第一の条件としてはデザインのよいことに需要者の半数に近い43.25%が主眼をおいているようである。これは心理的にみても必然的なことであるといえよう。次につづく条件として、サイズが丁度よいもの16%、着やすいもの14%、ねだんの安いもの11.25%、仕立てのよいもの9.5%、色のよいもの3.5%、布が気に入ったら買う2.5%の順で求められている。母親の年齢別の考えと、子供の年齢別による母親の考え、また都市郡別にみた母親の考えには第11表のように一例をあげてもあまり極端な差はないのでデザイナーおよび製作者、販売者側にとっては非常に好都合なことである。以上のべた母親と子供の意見を総合して、今後ますます需要者の希望にそえるようにデザイン方面、製作方面に心をそそぎ女兒既製ドレスの改善がなされなければいけないと考える。



第 16 図

女兒既製ドレスを買うとき一番気にかかること

III 総 括

以上総括してみると

(1) 女兒既製ドレスの利用率は非常に高い。
 (2) 需要者の求めている女兒既製ドレスと販売されているものとの間に相当のひらきがある。とくに「あき」の位置と「とめ」の方法については希望されているものと実態とでは正反対である。

(3) 需要者はサイズの全国統一化をのぞんでいるが、メーカーによってサイズがまちまちであることを知りながらも、号数をたよりに買ったり子供より大き目なものを選び勝ちなようにサイズについては非常にむとんちゃくである。

(4) 子供は年齢が多くなればなるほど自分の意見を多分に入れて洋服を買うようになる。

(5) 母親は子供の服装には関心があり、子供の服を買い求める責任は多く母親にある。

(6) 現在販売されている女兒既製ドレスの製作方面の批判、デザイン、価格の批判の目は、きびしく今後の女兒既製ドレスのあり方についての希望は大である。

(7) 母親の年齢別の考え、子供の年齢別についての母親の考え、都市別の母親の好みや希望にあまり目立った差がないのでデザイナーや製作者、販売者にとっては好都合である。

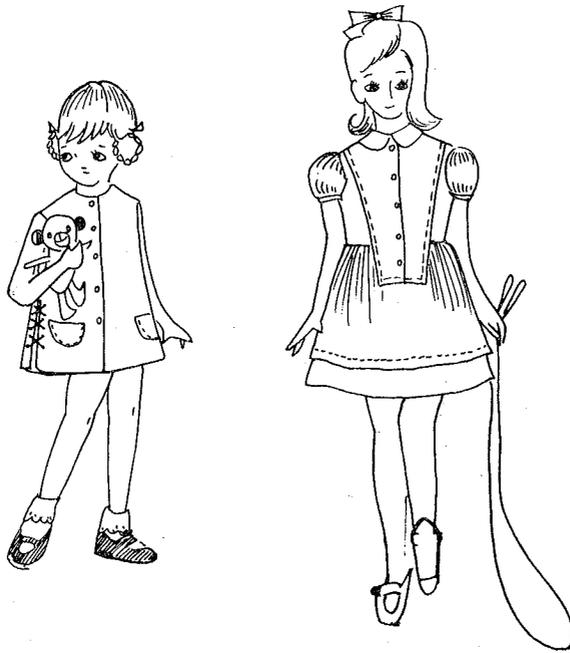
(8) 需要者の希望をとり入れて子供と母親、デザイナー、製作者、販売者が一体となって、よりよい女兒既製ドレスをつくることが心要である。

ここで母親と子供の求めているデザインや、いろいろの条件をある程度発見することができた。これにふさわしいデザインを夢みて第17図(文献3参照)のようなスタイルを考えてみた。このデザインによる作品をつくり、デザインの批判、製作のよし悪し、販売状況の成績、試着の結果などによる調査成績を今後の研究テーマとしてみたい。

第11表

	郡市別					母親の考え					子供の年齢別についての母親の考え							母親年齢別の考え						
	賀茂郡	高田郡	安芸郡	広島市	安佐郡	佐伯郡	呉市	市	県	外	2才	3才	4才	5才	6才	7才	8才	9才	10才	20~25才	26~30才	31~35才	36~40才	40才以上
イ	72.7	87.5	84.2	80	94.9	92.3	80	80	80	90	80	82.5	76.7	76.7	92	90	73.3	86.7	80	81.8	77.8	84.6	77.8	
ロ	63.6	62.5	52.5	57.4	56.4	76.9	56.7	60	60	53.3	53.3	60	66.7	63.3	64	40	60	60	46.7	46.7	58	57.6	59	44.4
ハ	54.5	37.5	47.4	47.8	48.7	53.8	40	53.3	53.3	36.7	56.7	50	46.7	50	40	35	59.7	50	40	53.4	40.4	48.7	38.9	
ニ	54.2	62.5	57.9	73.9	79.5	69.2	73.3	73.3	73.3	80	80	67.5	63.3	66.7	68	85	53.3	66.7	80	72.7	60.6	76.9	55.6	
ホ	63.6	75	68.4	67.8	66.7	53.8	60	73.3	73.3	50	80	82.5	66.7	63.3	60	65	66.7	56.7	66.7	68.2	55.6	71.8	72.2	
ヘ	63.6	50	68.4	67.8	59	38.5	76.7	60	60	53.3	63.3	67.5	76.7	83.3	64	60	53.3	53.3	73.3	63.6	61.6	64.1	50	
ト	27.3	37.5	31.6	35.6	28.2	23.1	36.7	26.7	40	40	33.3	30	36.7	23.3	40	35	40	30	26.7	29.5	35.4	38.5	22.2	
チ	72.7	80.1	84.2	81.7	82.1	84.6	76.7	82	76.7	76.7	83.3	72.5	83.3	70	70	80	93	73.3	73.3	80.7	77.8	68.7	77.8	
リ	36.4	37.5	47.4	40.9	35.9	38.5	43.3	53.3	43.3	43.3	36.7	37.5	46.7	36.7	44	40	40	46.7	46.7	43.2	36.4	35.9	44.4	
ス	63.6	62.5	68.4	64.3	53.8	69.2	60	60	53.3	53.3	66.7	62.5	60	56.7	72	70	60	63.3	60	58	63.6	61.5	50	
ル	63.6	62.5	68.4	64.3	53.8	30.7	36.7	53.3	50	46.7	46.7	50	46.7	43.3	52	45	40	50	40	48.9	49.5	38.5	33	
ヲ	63.5	50	63.2	54.8	66.7	53.7	50	73.3	63.3	63.3	56.7	57.5	60	43.3	72	60	60	53.3	53.3	51.1	55.6	59	55.6	

- 問 ① ボタンやスナップつけがよくないと思う。
 ② 裾のぬいしろを多くしてほしい。
 ③ 脇などのぬいしろを多くしてほしい。
 ④ ぬい方をいねいにしてほしい。
 ⑤ ポケットを必ずつけてほしい。
 ⑥ 一人でぬき着のできるデザインにしてほしい。
 ⑦ 全体のデザインがごじている気がする。
 ⑧ 子供服の号数は製作工場によってちがうことを知っている。
 ⑨ 女兒既製ドレスは安いと思う。
 ⑩ 女兒既製ドレスに対して今後改良が望ましい。
 ⑪ 女兒既製ドレスを買って体に合うように手直しをする。
 ⑫ スナップやボタンをしっかりとつけかえてから着せる。



第 17 図

本調査に御指導御助言をいただきました本学の海見綾子教授、また、調査にご協力いただきました広島市立袋町小学校、福屋百貨店、十和株式会社、既製服製作工場平岡商店および本学学生に厚く謝意を表します。

参 考 文 献

- (1) 日本工業規格：L4202—1962 2
- (2) 福富芳美：子供服のデザインに関する2, 3の私見
繊維製品消費科学 7, 400, 1966
- (3) 谷山和美：広島高等洋裁女学院月刊誌 1966, 111

A Study on Girls' Ready-Made Summer Dresses (The First Report)

(On new designs based on popular demands)

By Kazumi Taniyama

Recently ready-made clothes have made remarkable progress both in number and quality, especially girls' ready-made dresses are conspicuously in demand.

The purpose of this study is, through on-the-spot investigations, to throw some light upon the following problems:

1. What do mothers demand for their children's ready-made dresses?
2. How are the girls' ready-made dresses on the market?
3. What kind of ready-made dresses are worn by the children in their daily life?
4. What are the merits and demerits of girls' ready-made dresses?

Thus I would like to know how such dresses should be improved.

The mothers I asked for their opinions were picked at random out of those who live in Hiroshima Prefecture and its vicinity and have daughters between the ages of 2 and 10; they

were 400 in number. The children I investigated were those who were walking along the busy streets in Hiroshima, apparently in ready-made dresses, between the ages of 2 and 10 and some children at certain elementary schools in the city ; they were about 400 in number. The sales survey includes the department stores and children's clothes speciality stores in the city. The manufacturing survey includes ready-made clothes manufacturing factories and the likes in the city.

The mothers' opinions were collected by the investigators' personal visits to individual homes. The selling situation, buyers' needs and the manufacturing time were also checked up on the spot. I have found as a result that there were large discrepancies between the needs of the consumers of ready-made girls' dresses and the dresses on the market at the present time. For example, mothers want the dresses with front opening while most dresses in the stores and actually worn by the children have opening on the back. Mothers want front opening dresses because then the children can wear them by themselves without being helped by others. But the manufacturers say that back-opening ones are simpler in design and look gorgeous. Mothers want dresses with snaps and buttons but those with fasteners are many on the market because they are easily made in less time. The consumers want the sizes standardized but it seems difficult to realize it. Some consumers, however, are indifferent to the size. Mothers are much interested in their children's clothes and they are responsible for buying them, but as children grow up to the age of four or five, they begin to have their own opinions about their dresses and are inclined to get what they want. This tendency grows stronger as they become older until finally they insist on their own choice. There is little difference in the choice among mothers of diverse ages or of having children of diverse ages or those living in the city or in the country, the fact of which is convenient to the designers, manufacturers and salesmen.

Consequently, the designers, manufacturers and salesmen should cooperate, taking into consideration the needs of the consumers, and make better and more convenient girls' ready-made dresses.